



木曽川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

テーマ 「川の中を覗いてみよう」

お盆休みのまっ只中のせい、公園の人影はまばらで、この時期の観察会参加者はいつもより少なめです。

暑いこの時期は、木陰のない河原を歩いて回るのはいへんなので、今回のテーマは川の中の生き物です。

流れがゆるやかな川の表面にはアメンボが浮かび、川の中には小さな魚の動く姿が見られます。柳の木やヨシの根本付近にタモを当てて、ガサガサをすると、エビや小魚が採れました。エビの多くはヌマエビの仲間のように、体長3cm程で黒っぽい体色をし卵を持ったものも見られました。もう少し大きなスジエビらしいエビも網に入りましたが、確認しようと小さな容器に移す時に跳ねて逃げてしまいました。魚はヨシノボリの仲間とオイカワあるいはカワムツの稚魚のようでした。

その他に、ヤナギの根本の奥深くを探ると、扁平で独特の形をしたコオニヤンマの弱齢のヤゴがたくさん入りました。このヤゴは水質階級Ⅱ（少し汚い水）の水域の指標生物です。木曽川の本流は水質階級Ⅰ（きれいな水）ですが、今回調べた場所はヨシ原の脇のよどみのある場所だったので、水質階級Ⅲ（きたない水）の指標生物のミズムシも採れました。過去には水質階級Ⅳ（たいへん汚い水）の指標生物のアメリカザリガニも採れたことがあり、いろいろな水質階級の生き物が混在している場所のようです。

川の生き物を見た後は、138タワーパークの木陰を通過して、もくもくパラダイスに向かいました。途中、草原でマユタテアカネを何頭も見かけました。すいぶん赤く色づきアカトンボらしくなったオスも見られました。この辺りではアキアカネやナツアカネが激減し、このマユタテアカネが最もよく見かけるアカトンボになってしまいました。

もくもくパラダイスには在来のヌスビトハギと外来のアレチヌスビトハギが混在している場所があります。花の時期が異なりヌスビトハギだけが咲いていましたが、小葉の形状（ヌスビトハギの方が先端がとがる）、葉の色（ヌスビトハギの方が暗緑色）など両者の違いが比較できました。少し離れて、近い仲間のフジカンゾウが咲いていましたが、ヌスビトハギと比べるとすいぶん大きな花で、葉も小葉が3枚ではなく、5枚あるいは7枚です。ここの林もじっくり見るとおもしろい植物が生えています。（報告：齋竹）

＜その他観察できたもの＞ 昆虫：マメコガネ、ナミテントウ、シロテンハナムグリ、セイヨウミツバチ、オオスズメバチ、ハグロトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボ、モノサシトンボ、モンキチョウ、キタキチョウ、ナミアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、サトキマダラヒカゲ、ツマグロヒョウモン、アブラゼミ、クマゼミ（声）、ツクツクボウシ（声）、ショウリョウバッタ、エンマコオロギ 鳥：ツバメ、ヒバリ、セグロセキレイ、モズ（声）、ヒヨドリ、キジバト、ムクドリ 花：イワダレソウ、アレチマツヨイグサ、ノブドウ、カワラサイコ、カワラマツバ、ブタナ、ヒメジョオン、アレチハナガサ、ハマクマツツラ、ヘクソカズラ、クズ、シロツメクサ、ミソハギ、ヤブミョウガ

日時 2016年8月14(日)9:30~12:00 (晴)

参加者 一般：1名（うち子ども1名）

指導員：4名



(観察会のようす)



(たくさん見られたコオニヤンマのヤゴ)



(林の中で休むマユタテアカネの♀)